

船舶事故調査報告書

平成25年1月10日
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決
 委員 横山 鐵男（部会長）
 委員 庄司 邦昭
 委員 根本 美奈

事故種類	乗揚
発生日時	平成24年3月5日 00時05分ごろ
発生場所	愛知県南知多町大磯南西端 南知多町所在の尾張大磯灯標から真方位165°300m付近 （概位 北緯34°42.6′ 東経137°01.2′）
事故調査の経過	平成24年3月5日、本事故の調査を担当する主管調査官（横浜事務所）ほか1人の地方事故調査官を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	自動車渡船 ^{ほくせい} 北成1号、19トン 271-32335宮城、特定非営利活動法人宮城ポートルネッサンス協会 15.90m (Lr) × 5.48m × 1.79m、軽合金 ディーゼル機関2基、588.40kW（合計）、平成元年6月
乗組員等に関する情報	船長 男性 69歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和52年12月20日 免許証交付日 平成22年5月12日 （平成27年5月30日まで有効） 甲板員 男性 80歳
死傷者等	なし
損傷	左舷舵板に曲損、両舷プロペラ及びプロペラ軸に曲損等
事故の経過	本船は、船長及び甲板員ほか1人が乗り組み、回航の目的で船首約0.8m、船尾約1.0mの喫水で宮城県仙台塩釜港に向けて遠州灘を東進中、静岡県御前崎市御前埼の南西方沖約15海里に達した頃、向かい風と風浪により航行困難と判断した船長が伊勢湾内で避泊しようと考えて西進し、平成24年3月4日18時30分ごろ伊良湖水道を通じた。 船長は、香川県土庄町土庄港出港前に本船の速力を8ノット（kn）と想定し、三重県尾鷲市尾鷲港、同県の矢港、静岡県下田市下田港、千葉県館山市館山港に入港する予定を立てて4枚の海図を準備していたが、GPSプロッターの海図情報の整備状況や機関の整備状況については雇用主から不要と言われたので、確認を行っていなかった。

	<p>船長は、出港後、機関の回転数毎分が約800以上には上がらず、速力も約4knであることを知り、また、瀬戸内海を出てからは、GPSプロッターが緯度及び経度の数値のみの表示となっていることを知った。</p> <p>船長は、23時00分ごろ、甲板員に三河湾に入り東進することを指示して休息をとることにして自室に戻った。</p> <p>操船を引き継いだ甲板員は、針路を約090°（真方位）、約4.5knの速力として目視により前方を見ながら立って操舵を行い、しばらく航行したが、作動させたレーダーが不調であったため、船位の確認ができずに不安を感じて南知多町日間賀島東方沖で漂流中、風と潮に圧流され、3月5日00時05分ごろ大磯南西端の干出岩に乗り揚げた。</p> <p>本船は、00時35分ごろ上げ潮により自然離礁したが、その約5分後、再び漂流してのり網設置区域に進入し、のり網の錨綱2本に接触して切断したので、航行を続けることを断念した船長は、海上保安庁の救援を待ち、06時50分ごろ巡視船によりえい航されて愛知県衣浦港に入港した。</p>
気象・海象	<p>気象：天気 雨、風向 東南東、風力 4、視程 約10km以下</p> <p>海象：波高 約1～1.5m、潮汐 上げ潮の中央期</p>
その他の事項	<p>本船は、瀬戸内海を航行区域とする小型フェリーであったため、GPSプロッターの海図情報は、瀬戸内海のみであった。</p>
分析 乗組員等の関与 船体・機関等の関与 気象・海象の関与 判明した事項の解析	<p>あり</p> <p>あり</p> <p>あり</p> <p>本船は、日間賀島東方沖において漂流中、海図を備えておらず、また、レーダーが不調となって船位の確認ができなかったことから、風により大磯に向けて圧流され、大磯の干出岩に乗り揚げたものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、日間賀島東方沖において漂流中、海図を備えておらず、また、レーダーが不調となって船位の確認ができなかったため、風により大磯に向けて圧流され、大磯の干出岩に乗り揚げたことにより発生したものと考えられる。</p>
参考	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回航においては、避泊地の検討を行い、関係海図を準備して発航すること。